

TSY MANINONA

JOURNAL SUR MADAGASCAR



木川 莉江 KIGAWA RIE

JICA青年海外協力隊として
マダガスカルのアンブイマナンブラで活動中
大塚製菓株式会社より現職参加
(2021-3次隊/コミュニティ開発)

マダガスカルの年末年始

遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。マダガスカルで初めて過ごした年末年始は、体調があまり優れなかったため、残念ながら大事をとって寝正月になりました。でもご近所さんの楽しそうな音楽と歌声が夜通し聞こえており、布団の中でマダガスカルの年越しを感じることができました。

また1月は私の誕生日。マダガスカルでは誕生日の当人がもてなす風習。日本との違いに少し違和感と面白さを感じつつ、食事や飲み物を沢山買って市役所職員にお祝いをしてもらったり、本当の家族のように良くしてくださっているご近所の大家族も、家に招待していただき誕生日会を開いてくれました。大きなケーキにはぶどうが私の歳の分29個。素敵なおもてなしで楽しく過ごすことができ、本当に感謝です、！

生活改善チームの結成

昨年11月から計画をしていた生活改善チーム。やっと結成し活動を開始させることができました。これまでは一人で地域を訪問し、生活改善活動を少しずつ広めていました。

ただ、これでは「私が帰国後に生活改善を広めてくれるひとがおらず持続していかない」、また「市にある10個すべての地域に広めたいが一人だと限界がある」と感じ悩んでいました。考え抜いた末、一緒に生活改善のボランティアをしてくれるマダガスカル人を募集しチームを結成することにしました。市役所から各地域へ募集をかけてもらい、結果集まったのは約15名。主婦・学生・会社員・無職とすごく幅広いメンバーです。参加理由を聞くと、「生活を良くしていく方法を学びたい」「祖母の家が田舎で問題が多い、生活改善をすぐ取り入れたい」「この活動をしつつ日本語も勉強したい」等、色々な思いを持って集まってくれていました。

2月中はボランティアメンバーの訓練、3月からこのメンバーで全ての地域を周り、住民に対して改良かまど・泥炭・家計管理などの研修を行います。私の目標は任期終了時に生活改善活動を行う住民の人数が150人以上になっていること。生活改善チームのみんなと共に、一人でも多くのアンブイマナンブラ市の住民に「生活改善活動」を知ってもらい、住民の生活の質の向上に貢献できるよう頑張りたいです。





CÉLÉBRATION DE NOËL

クリスマスのお祝い

国民の80%以上がキリスト教信者のマダガスカル。クリスマスのお祝いも盛大でした。任地の市役所では、早くも12月16日から始まり、10日間かけて10つのすべての区においてパーティを行いました。

まずは音楽に合わせてサンタクロースと一緒に子ども達が踊り、キャンディーやおもちゃの配布、市役所職員の自己紹介と活動紹介（私も生活改善活動の説明をさせてもらいました）、ご高齢の方へのお金の配布など色々なことを行っていました。

そのなかでも印象に残っているのが、各地域で日々の生活に対する意見や疑問を聞く時間を設けているところでした。手を挙げた住民は、学校・病院へのアクセスの悪さの問題、雨季の農作物被害の問題、水の衛生状況の悪さ、断水・停電の多さ、など多くのこと挙げていました。住民みんなで問題を共有しあい、市長さんや市役所職員がそれを受け止め改善に努めていきたい旨を話しており、すごく有意義な時間でした。

市役所のゴミ収集サービス

任地では、日本のようなゴミを回収する公共サービスはまだありません。各住民が溜まったゴミを燃やしたり、その辺の道に捨てる現状。なので街には多くのゴミ溜めがあり問題になっています。

解決に向かうべく、昨年市役所が計画していたゴミ収集サービスを年明けに新たに開始し、そのお手伝いにも参加させてもらいました。一軒一軒まわり、サービスの詳細内容を伝えました。サービスの定着には問題も多く時間がかかるように思いますが、長期的にみて街のゴミ溜めが少しずつ減っていくシステムになっていると感じます。衛生に関しては、このサービス運営を手伝いつつ、私は以前アンケートも取ったお店の衛生改善マニュアル作りに取り組んでいます！

“

tratry ny taona

マダガスカル語で「あけましておめでとう」です。

遅くなりましたが、tratry ny taona!
今年もどうぞよろしくお願いたします。

